

急性胃腸炎



病原体：冬に多いロタウィルスやノロウィルス、食中毒の原因になるサルモネラ菌やカンピロバクター、病原性大腸菌のほか、原因が特定できない場合（“おなかの風邪”）も少なくありません。

感染経路：食物や手指からの経口感染です。



《症状》嘔吐、下痢、腹痛、発熱などです。白っぽく激しい水様便ではロタウィルスを、血便の場合は細菌性腸炎を疑います。しばしば重篤な脱水症の原因となり、米国で年間 300 人、途上国で年間 200 万人の小児が死亡しています。

《治療》適切な水分補給が重要です。軽症なら経口補水、重症は入院での点滴治療が必要です。

※胃腸炎に対する経口補水療法

外来での点滴は、痛い思いをさせる割には効果が限定的な治療法で、最近では点滴の代わりになるように作られた“経口補水液”を十分に与えることで、入院せずに済むこどもさんが増えています（重症例は入院しないと危険です）。市販されている OS-1、アクアライト ORS や、病院で処方されるソリタ T 顆粒がこれに相当し、吐き気がなければ好きなだけ飲ませて構いませんが、吐き気がつよい場合は、乳児では1回に小さじ1杯（5ml）程度をスプーンかスポイドで、幼児以上では1回におちょこ半分から1杯を、5分間隔で1〜2時間、根気よく与えてください。その頃には嘔気が治まってくるのが良くあります。

なお、水分補給にといって家庭でしばしば与えられるスポーツイオン飲料は、経口補水液の代用にはなりません。お茶や麦茶も同様です。

※家庭での注意点※ ~~~~~

経口補水をしっかり行います。最初の 2 日間くらいは経口補水以外に食事がいっさいとれなくても、まず問題ありません。食欲が回復してきたら消化の良い食べ物から始めます。

入浴は、きつそうなときは控えます。下痢のたびにお尻は洗ってください。

ただし、下記のような場合には家庭で無理をせず、入院しなければなりません。

「こんなときは入院が必要です。」

- ・ 経口補水を十分に行えない、または継続して看護できる人がいない。
- ・ しつこく吐き続けたり、嫌がって飲まないなど経口補水ができない。
- ・ 下痢の回数や量が特に多く、経口補水だけでは水分が追いつかない。
- ・ 目のまわりのくぼみ、皮膚の張りがなく白く冷たい、泣いても涙が出ない、口や舌の乾燥がひどい、顔色がものすごく悪い、尿が極端に少ない、呼吸が速い、眠ってばかりいて意識がしっかりしていない、機嫌が悪くピリピリする、など脱水による症状が強い。
- ・ その他、ものすごく元気がない。

